京都帝國大學新聞

月二回　五日・二十一日發行

購讀料
一部五錢（郵稅五厘）
一年一圓（郵稅とも）

廣告料
一行につき金五十錢（記事中は此二倍）掲載ページを指定するときは二割增とす

發行編輯印刷人　入山雄一

發行所　京都帝國大學學友會新聞部
電話上九〇八番
振替大阪七三二八九

佳き日をむかへて

わが師よ、友よ　ことほぎ祝へ

合唱と舞樂の餘興もあり

けふぞ創立記念祝日

本學創立記念日は六月十八日であるが、時あたかも梅雨期で、多人數の集合に不適當のうらみもあり一月くりあげて五月第三日曜を記念祝日ときめてゐるが、今年はけふ廿日がその日に當るので午前九時から本部階上大ホールで左の通り式が行はれる

午前九時學生着席、職員着席、先づ國歌齊唱、つゞいて松井總長の挨拶、學生代表理學部太田芳雄君の祝辭、次に法學部末廣教授の興味深き感想談に往昔を偲び、終つて京大萬歲を三唱

これで式を終りいよ〳〵十時から餘興に移る、今年の催しは、佛光寺和樂會の演ずる古雅な舞樂と、音樂部合唱團の東西名曲の合唱とで、なほ參會者一同に菓子をくばつて、敬へるもの、敬へられるもの一つになつてこの佳き日を壽ぎ祝ふことになつてゐる

舞樂目錄　振鉾、春庭花、白濱、羅陵王、拔頭、長慶子

合唱團の出演曲目　△大學の歌△歌へ若人△記念祭の歌△獵人の合唱△南へ（アメリカ民謠）△乾盃の歌△陽は燃えたり△アメリカ南方曲集△カナリヤ△蛙（ドイツ民謠）△證城寺の狸囃子△ヴオルガの舟曳唄（ロシヤ民謠）△日本古典集「さくら」△獨逸ミサ△グローリア

化學研究所　第八回講演會

大阪電氣クラブで　來る六月二日午後一時から

大正十四年夏創立以來、本學化學研究所は有能なる多數所員を擁して「化學に關する特殊事項の學理及び應用」の研究を續け、毎年一回講演會を催してその研究發表を恒例として來たが、本年度は六月二日午後一時から大阪市堂島電氣倶樂部でその全スタフを動員して左の通り第八回講演會を開催する

▽開會の辭　堀場信吉氏
▽紡糸時に於けるヴイスコース流出の機構に就て（十五分）　神保神三郎・田中國吉氏
▽不飽和脂肪酸及其誘導體（第十五報）（十五分）　丸山、勉氏
▽シルミン組織に關する研究（第三報）（二十分）　小籐甫氏
▽亞酸化銅の粒子の大さの測定に就て（十五分）　渡邊俊雄・田邊昇氏
▽齒科用合金に就て（特別講演、十五分）　宇野傳三氏
休憩五分
▽白絹病菌の纖維素分解酵素について（十五分）　藤村吉之助氏
▽電氣界面動亂に關する研究（第五報）志方益三氏、界面水相の性質について（二十分）　福渡七郎氏
▽共軛二重結合を有する有機物について（特別）（卅分）　鈴木文助氏
▽腫瘍組織の蛋白分解酵素に就て（豫報）（十五分）　内野仙治氏・吉岡政七氏
▽血壓降下性物質の研究（第四報）（十五分）　土岐正雄氏
▽菌類の化學（特別）（卅分）　前田鼎氏
▽閉會の辭　所長　喜多源逸

乾漆製寢棺を　化學科諸教授が見學

防腐と保存が當面の問題

本紙既報―大阪府三島郡の本學地震研究所阿武山で發掘された乾漆製寢棺は考古學、國史學研究に大なる興味と興奮とを與へ、その後各學界より續々研究的見學が行はれてゐるが、梅雨を目前にした濕潤期に入つたことゝて、それの保存方法が具體的に講ぜられねばならなくなつた、密閉の石室より明るみに出て濕潤の空氣に浴し、酸素に觸れた爲最近では寢棺に新しく黴がつき初めた、さる十七日理學部化學科の堀場、佐々木兩教授石橋助教授らが見學して、黴の防止と防腐の藥品などが考へられつつあるが、關係諸官廳においてもこの學界の珍寶の保存法が考へられ早晩具體化されるであらう

退官教授送別の宴

昨年來の行きがかりを　サラリと水に流して

思ひ出の京大事件を一周年の間近に控へて、さる十七日午後五時半から、昨年中に退職した教官諸氏の送別宴が本部階上教官食堂で催された

出席者は京大事件の犧牲となつた小西前總長をはじめ前法學部長宮本英雄、前法學部教授佐々木惣一、瀧川幸辰、森口繁治、末川博、田村德治、恒藤恭、元經濟學部教授前總長事務取扱山本美越乃博士らの九氏、在職側は松井總長、各學部教授、助教授ら百餘氏

いづれも昨年來の行掛りをサラリと水に流して、和氣あいあい、デザート・コースに入るや、まづ松井總長は退官諸氏惜別の辭を述べ之に答へて小西前總長の謝辭あり山本博士は退官側を代表して京大萬歲の乾杯をなせば、微醺を帶びて突如立上つた經濟學部切つての酒豪財部靜治博士は「雲か山か呉か越か…」と朗々たる詩吟を試み、八時半盛會裡に散會した（寫眞は送別宴の一部）

柳田國男氏の「民間信仰」

廿二日から開講

文學部史學科副科目として柳田國男氏の「民間信仰」は六月廿二日（火）より史學科教室で開校の筈、民族學、土俗學の研究は近年來とみに活氣を帶びて來てゐるが、これの統一的理論づけまでには、また至つてゐない、かゝる際とて吾國における斯學の實踐上の草分けであり育の親である柳田氏の大學に於ける講義は、大なる期待をもつて迎へられてゐる

文學部研究室も

古さをほこる―いよ〳〵改築される

本學構內の建築物中文學部教室と共にその古さを誇つてゐた遺物的存在である文學部研究室も、愈よ六月からその記念すべき姿を改められることになつた、先づ西半分が改築され先年增築された新館と合體して統制ある研究室をもつ一館が出來あがる、東半分も來年改築される豫定であるから、あの雜然とした一角がやがてすつきりするわけだ、ちなみに該建物は明治四十二年の建築にかゝるもの

レコードコンサート

同好會主催で

經濟學部同好會では來る廿二日、午後六時半から樂友會館で、新しい試みとしてレコード・コンサートを行ふ、會費は無料、但し會員券を事務室で受取られたしと、定員は八十名まで、曲目はモツアルト、シユベルト等の有名なる洋樂である

美術展覽會

觀覽希望の學生諸君へ

京都市主催美術展を鑑賞する學生諸君の便宜を計つて、農學部四明會、經濟學部同好會では學生入場券を頒けることになつた、殊に同好會では會員でないものでも會員二十錢を持つて三人以上同行して行けば入場券をくれるが、制服制帽で觀覽すべきことを條件とする、日は廿五日の閉會まで、會期中いつでも隨意である

新聞學研究會

五月例會は二十一日夜

新聞學研究會では四月以降本學々生の入會希望者二十餘名をこゆる盛況であるが、二十一日午後七時から樂友會館で五月例會を開催、同會幹事原田棟一郎氏（朝日重役）の「新聞のニュースについて」と題する講演あり、これを中心にそれ〳〵材料を持ちよつて研究するなほ入會希望者あれば、研究步調をそろへる關係上、この際でなければ、或は受付けぬことになるかも知れぬから、至急京大記者クラブ（本部舊館階上）へ申込まれたしのこと

石楠花さく　芦生演習林へ

農學部教授ら視察

さる十二日農學部教授ら十數氏は附屬演習林長市河三祿教授の案內で、丹波芦生にある演習林を視察したが、附近一帶の山林は、折から石楠花、つゝじ、山藤などの花ざかり、新綠を點綴する紅紫のいろあでやかなのをめで、流れに歌ふ河鹿の聲に心を澄ませて、その夜は山小家に一泊、十三日歸洛した、同行孤山君に句あり

杉の秀に紅燃ゆる躑躅かな
石楠花の紅こぼす流れかな
石楠花を崖に咲かせし五葉松
石楠花に幹を覆はれし朽木哉
石楠花や岩肌を這ふ雨けむり

（寫眞は演習林視察の一行）

軍醫の卵　採用試驗

陸軍衞生部委託學生志願者の採用試驗が、來る廿四日午前九時から京都偕行社で行はれる、試驗科目は△物理△化學△數學△生理學△外國語（高校卒業程度）文具携行のこと

經濟學部開設　十五周年を迎へ

來る廿九日を期して　盛んなる記念祝賀の催し

本學經濟學部は大正八年五月學制改革により法學部から獨立して今日に至り、本年は獨立十五周年に當るので來る廿九日これを記念するため當日は午前から記念展覽會を開き、午後は別項の通り講演會を開催、夜は同好會の主催で教官、職員、學生合同の談話會を催すことになつた

秘藏の珍籍や　著名經濟學者の肖像　手蹟等を展觀

圖書展覽會は廿九日午前から本部階上大ホールで開かれるが、これには經濟學部及び教官所藏の珍籍稀覯本、著名經濟學者の肖像畫に肉筆手蹟、圖表等が出陳される

出品目錄

日本經濟書　△仁井田好古自筆本「儲德略訓」（明和年間）△淺井子文輯、高橋重直寫「せめては草」（享保年間）△松井織洲自筆本「神武不殺篇」（寶曆年間）△若山儀一自筆稿本「英民誌略」等の珍書を始め明治十五年以前の經濟書約百點

洋書の部　十八世紀以前のマン、チヤイルド、ケネー、ステユアート、ネツカー、チユルゴー、スミス等の初版本をはじめ約百五十點、十九世紀に入つてはマルサスの「人口論」ミル、リカルドの「原論」マルクスの「資本論」オウエーン・サンシモン等の各部版本をはじめ著名經濟書の初版本だけで約八百點

手蹟の部　マルクス、エンゲルス、ベーベル、セイ、バクニン、プルードン、サン・シモン等の書簡△其の他マリヤー文庫、ビユーツヒヤー文庫等中の所藏せられた著者自署入の獻本の數等當初の豫定一千點を遙かに超ゆる樣子で目下職員はその準備に忙殺されてゐる、かつて慶應大學其の他で經濟學書の展觀は度々行はれたが、一學部で組織的にも質的にもこれだけの展觀をなし得たものはいまだ無かつた

記念講演會

午後一時から　階上大廣間で

記念講演會は廿九日午後一時から本部階上大ホールで開かれるが講師と演題は左の通りである

◇思想の力と力の思想　作田莊一教授
◇幕末の十五箇年　本庄榮治郎教授
◇利子論　高田保馬教授
◇所得稅をめぐる二つの問題　汐見三郎教授

談話會　は集會所で

談話會は講演會終了後學生集會所で開かれるが、教官、職員、學生合同して會食し、教官の學術談や所感を聽いて記念の初夏の一夕を樂しく過す筈である

日佛學館講演

聽講を歡迎する

けあげ・九條山の關西日佛學館では、來る六月中に左の公開講演あり、本學學生の來聽を歡迎、講演終了後代理館長フオンテヌ氏から茶の饗應がある

▽六月二日（土）午後三時半「フランス民法における妻の地位」巴里大學法學部教授ジユリオ・ド・ラ・モランヂエール氏
▽六月九日（土）午後三時半「日佛比較法における婚姻」法學博士ジヤン・シヤバス氏

東洋史談話會

廿四日夜開催

文學部史學科東洋史研究室の談話會は廿四日午後六時半から樂友會館で例會を催し、左記二氏の講演あり、會費三十錢、新入生を歡迎する

唐代貴族の家訓　宇都宮清吉
魏の造像について　塚本善隆

周憲文氏　留學生監督に

駐日留學生監督黃霖生氏辭任のあとを受けて、本學出身の周憲文氏任命、近く來朝履新する

鳥取高農で開催の　農林經濟集談會

農學部橋本教授以下出席　杉野助教授の經濟調査報告

農林經濟の學者と實際家とを合せて近畿地方の農村生活改善を主眼とした農林經濟の集談會が廿六、七の兩日鳥取高等農林學校で開催されるが、本學農林經濟教室からは橋本、大槻兩教授をはじめ教室總動員で出席することになつた、これにつき農學部杉野助教授を訪へば左の如く語つた

この集團會は昭和四年以降時々開かれたが、學者と實際家とが膝つき合せて近畿地方の農村生活改善の策を發表し合ふので有意義なものである、私も今回出席して農村經濟調査に就て發表する豫定だが實は昭和五年以來本學部の學生を率ゐて毎年農村經濟調査を行つたもので、唯今もその整理中であるが面白い結果が見られると思ふ、昨年は滋賀縣下の湖南地方の鏡山村で農家の生計調査をしたがこれによると、農村不況の聲は喧しいが具體的に見ると生活に餘剩のある農家が多いと云ふわけになり、例へば一部落の農家中三分の二は年額百三十圓宛の餘剩を見せ他の三分の一の農家では年に百二十圓の赤字を出してゐることになる、此の差が如何にして出來るかは興味ある問題だが、大體において自給自足の經濟を極力やつてをり、勞働集約度を非常に高めてゐる上に生活程度がみぢめなほど低くなつてゐることは事實である、なほ精しい數字は後に發表するが農家自身が餘裕ありと感ずるや否やは別として、農家で寢起きしての具體的の研究上生活費に餘剩がああると云ふことが出來る材料をそのまゝ發表するつもりでゐる

集る同情

四方氏の篤志寄附

苦學生助かる

學生生計調査の數字を基礎にして明るみにさらけ出された「京大學生々活」の實際は、大野學生主事の講演となり、パンフレットとなつて社會に發表され、貧困學生に對する世間の同情は、さらに大いにあつまらうとしてゐるが、京都市伏見區たから味醂會社社長四方卯三郎氏から今回同主事の手元へ學資援助の申出があり、法・經・工・農四學部の學生各一人に對し、卒業まで毎月二、三十圓宛を今月から交付されることになつた

辛島氏の援助も　繼續されん

また一昨年夏以來、すきな酒をやめて苦學生を助けて來た東洋レーヨンの社長辛島淺彦氏の出資も、大野主事の懇願をいれて繼續されるさうだから、これでも何人かのわれらの學友のSOSがすくはれるわけだ

初夏の夜を　妙なる樂音に

本學交響管絃樂團の　定期演奏會は來月二日夜

甘ずつぱい香の漂ふ初夏の夜、六月二日午後七時から岡崎市公會堂で京大交響管絃樂團第二十六回定期演奏會を開催する、本學オーケストラの先輩でありエマヌエル・メッテル氏門下の逸足たる長廣敏雄氏がベートーヘン作、第三交響曲（英雄）ファリア作、〃パントマイム〃、〃火の踊〃に得意のタクトを揮ひ、又カントレル教授に就いて多年研鑽を重ね、本邦に於てその正しき技巧に獨特の風格を謳はれてゐる田中平三郎氏がその最も得意とするモーツアルトの第三提琴協奏曲に妙技を示す豫定である、乞ふ關西の新進の樂調に初夏の一夜をさかれん事を

黑潮香る　熊野へ

地理學教室の研究旅行

文學部地理學教室では二十三日から小牧助教授、春木講師の引率で地理學專攻二回生の研究旅行を行ふ、第一日は和歌山市で小野講師の臨地講義を聽き、印南、田邊附近の地形地質を調査して湯崎に宿泊、翌日海路串本に向ひトンボロ潮の岬の地形を見學して新宮に出で、熊野權現に詣で、那智瀧をみる、それから新綠のトンネルをプロペラ船に乘じて瀞八丁を遡り、若返つた谷の浸蝕地形を實地研究し、轉じて木の本、鬼ヶ城の海蝕崖を見、行く〳〵熊野灘沿岸地方特殊の民俗を調査しつゝ志摩に出で、三木本の眞珠養殖場に海女の生活を尋ね、鳥羽、宇治山田を經て歸洛の筈、全行程一週間

身體檢査は　二十一日から

本學學生の定期身體檢査は左記日割により毎日午後三時から五時まで（土曜日にかぎり一時から三時まで）學生集會所階上で施行するこの檢査は卒業後就職の際などに必要のことがおこるから、必ず受檢せらるべし

廿一日（月）　文・工・理
廿二日（火）　法・經・農
廿三日（水）　法・醫・文
廿四日（木）　經・工・農
廿五日（金）　法・醫・理
廿六日（土）　工・文・經

なほ檢査當日差支ある人は、便宜くりかへてもらふことも出來る

鳥をきゝに

川村教授九州へ

京都市紀念動物園長、本學理學部長川村教授は「今までこの附近の鳥類の鳴聲を聞いてしまつたので今度は九州の鳥の鳴聲を聞きに行く」とて去る十八日夜九州へ赴いた

山中溫泉へ

甲寅會の旅行

工學部甲寅會では來る五月二十六日（土）二十七日（日）の土曜、日曜を利用して春季旅行を石川縣山中溫泉に行ふことになつた、二十六日午前九時四十分京都驛出發、午後三時五十六分大聖寺驛下車、直に溫泉電軌線に乘り換へ、四時三十分山中驛着、溫泉に入り旅の疲を醫し、懇親會を催し、更に餘興の郷土舞を見て一泊、翌二十七日の朝同地にて隨意解散の豫定である、參加希望者は二十三日正午までに臨時會費金二圓を添へて工學部事務室に申込まれたしと

藤の花咲く　奈良へ

有信會の旅行　刑務所も見學

法學部有信會では廿四日新綠の奈良へ旅行するが、當日はゆつくりと奈良の藤を眺めた上、奈良刑務所も見學する、午前八時京都驛出發、費用一圓、人員百五十人

獨逸へ

大賀文學士　交換學生として

こんど日獨交換學生は本年獨文科卒業の大賀小四郎文學士に決定二ケ年の豫定で、九月ころ出發、ドイツに向ひ、ライプチヒ大學に學ぶことになつた

野一色君も　當分歸らぬ

また留獨中の野一色利衞文學士は今秋十月で期限が滿了するが、なほしばらく私費で研究をつゞけるさうだ

廣告

この新聞は二十一日附ですが、二十日の記念祝日の間に合せるため、一日くりあげて發行しましたから、その積りでご覽ねがひます（京大新聞編輯局）

高等試驗

日割きまる

昭和九年度高等試驗本試驗筆記試驗は行政科は六月十四日から二十三日まで、司法科は六月二十五日から七月二日迄の間に行はれるがその日割は左の通り

行政科

【必須科目】

日曜	午前	午後
14木	憲法	行政法
15金	民法	經濟學

【選擇科目】

日曜	午前	午後（一）	午後（二）
16土	刑法	刑訴	哲學
18月	國際公法	商法	倫理學
19火	財政學	商業政策	論理學
20水	民訴	農業政策	心理學
21木	工業政策	社會政策	社會學
22金	政治學	國史	國文漢文
23土	政治史	經濟史	

司法科

日曜	午前	午後（一）	午後（二）
25月	憲法	民法	倫理學
26火	商法	刑法	心理學
27水	刑訴	民訴	國史
28木	行政法	破產法	國漢
29金	國際私法	經濟學	社會學
30土	國際公法	刑事政策	社會政策
2月	哲學	論理學	

なほ試驗場は兩科共貴衆兩院で施行されるが、午前の科目受驗者は午前八時までに、午後の第一科目受驗者は午前十一時半迄に、第二科目受驗者は午後二時迄に貴族院通用門より試驗場へ出頭すること

CORONA Model S
劃期的ノ新機構！
小型輕快ノポータブル
而カモ機能ハ
大型事務用機ニ匹敵
英、佛、獨、露、各國語
數、化、工學用等
凡て完備
東京銀座　黑澤商店　電話銀座1638
京都寺町　文適堂　電話上1004

KYOTO SOCIAL DANCE ACADEMY
正則ナル英國風社交ダンス教授
毎日午後一時―十時（日曜及十七日休講）
K. S. D. A.
京都社交ダンス教授所
久志本蓄音器店經營
東大路熊野神社南・電上（3）5469.
講師　京都舞踏教師協會理事（竹本重次郎氏　渡邊武正氏）

WHITE. HOUSE.
喫茶ト洋食
高級洋菓子
農大グラウンド裏北二丁
高原湯開

運送報國
荷物運送運般
貸家貸間無料紹介
善進社運送店
銀閣寺電停西一丁

小山齒科醫院
東京齒科醫學士
小山正光
市電百萬遍西一丁北入
電話上五八二五番

處方調劑
新藥各種
體溫計類
熊野電停前
東山藥局
電上三一四〇

錢
銀沙灘
都富士
鼈甲燒
其の他季節御進物用菓種々取揃へて御座います
階上は御集會に御利用願上ます
御菓子とお茶の
百萬遍　かぎ政秋
電上二七三四

宣誓式告辭

總長　松井元興

茲に本年の宣誓式を行ふに當り入學學生の留意すべき一二要件を擧げて諸子の省察を促さんとす

凡そ大學に入る者は大學令の第一條に依り學術の理論及應用を學習し其蘊奥の研究と人格の修養とを目的とす可きや多言を待たず顧ふに輓近百年間に於る學術の進境は各科各門に渉り極めて顯著なるものあり所謂學術の大森林は鬱々蒼々日一日より榮え森林冉々刻一刻より長じ來り之を構成する專門各科は均しく參天の喬木と成り若くは蔽日の大樹と成り繁枝密葉は高く半空に交錯し盤根錯節は深く地中に蟠結せり今其本質を探りて根底に達し實相を究めて核心に徹し微を知り細大漏すことなきに至るに固より一朝一夕に到達し得る所に非ず

然るに初學の青年間には往々僅に枝葉の一端を見て直に大樹の全貌を盡せるが如く速斷し或は末節の皮相を認めて宛も根幹の眞髓に觸れたるが如く錯覺する者あり此速斷錯覺の結果は自己の知能を誇大視し專攻の學術を輕易視する慢心と爲り此慢心の爲に深遠なる研究の興味を消盡し眞摯なる學習の熱意を喪失する者少からず學業進修の障害孰れか是より大なるものあらんや

凡そ學業進修の要決は己れを虚うして專攻の學科に對し己れを恭うして先進の指導に接するに在り若し慢心內に萠して學術を輕侮し驕傲外に顯れて師友に不遜ならんか知見進むに路なく啓益入るに門なく獨り學業の進修をして全く絶望に歸せしむるのみならず志氣は漸く放縱に流れて行動は轉た節制を失ひ人格の修養も同時に荒廢につかざるを得ず此くの如くにして大學令第一條の目的を達せんとするは木に緣りて魚を求むるよりも難し

諸子は既に大業に志して大學に入れり今後奮つて學令學則の規律を守り學部長教官の指導に遵ひ學術の研讃に人格の修養に終始不斷の心力を注ぎ以て大學學生の本分と面目とを全うするは諸子の責任なり本日の宣誓は決して一片の形式として行ふものに非ず若し今漫然として之を誓ひ他日恬然として之を敗るが如き者あらば此れ實に天を欺き大學を欺き並に自己を欺く者なり各自明かに責任の重大を認め毅然たる覺悟と斷乎たる決心を以て宣誓簿に署名せよ

昭和九年五月五日

比島獨立まで

田中直吉

一五二一年マゼランによつて發見された比島は一五四二年以來西班牙領となつたが、十九世紀後半より西班牙の官吏・僧侶と土着豪族の横暴に對する島民の反抗運動が起り、叛亂は間斷なく繼續された。かゝる時に一八九八年米西戰爭が勃發して米軍はマニラを占領した。然るに米國の援助により組織されたアギナルド等の革命軍は西班牙軍を破つてマニラに迫り、米軍と衝突し、反西の鉾を轉じて反米の旗を翻すに至り戰鬪は一九〇一年まで續いた。米國政府は最初マニラ灣附近を除き比島を依然西領として置く意嚮であつたが、次第にその領有を希望し、一八九八年巴里媾和會議の米國全權に對する最初の訓令はルソン島のみの獲得であつたのが、遂に全島の領有を主張するに至り西班牙に二千萬弗を支拂つて之を買收した

抑々マッキンレー大統領をして飽まで比島領有を決意せしめた理由は、（一）米國産業の急激なる發展は過剩商品の市場を必要とし、比島が之に對する好箇の市場を成し又東洋貿易の中繼地と目されてゐたこと、（二）東洋市場獲得のためには比島に海軍根據地の設置を必要としたこと（三）當時獨逸は西班牙と密約を結んで比島領有の野心を有してゐたこと等が擧げられる

斯くして比島は米國の植民地と化したが、米國は比島人の獨立運動に刺戟されて漸次比島の自治を認める樣になり、特に民主黨のウイルソン大統領は一九一三年ハリソンを總督に任命して自治の範圍を擴大し、一九一六年にはジョーンズ法を制定して選擧制の上下兩院を創設したのみならず「強固なる政府が出來次第獨立を許す」ことを公約したので、獨立運動はその前途に光明を認めた。併しながら一九二一年共和黨のウッドが總督になるに及び前總督の施政を非難して威壓的政治を行ひ、爾來クーリッヂ、フーヴァー兩大統領を代表する總督も亦之を踏襲し、比島國民黨を中心とする執拗なる獨立運動にも拘らず、共和黨全盛の爲に民主黨の比島獨立案は常に葬り去られて其の目的を達し得なかつた

然るに一九二九年以來の米國經濟不況は比島獨立問題に新なる局面を開いた。即ち比島の砂糖椰子油等が無税で多量米國に移入されて不況に苦しむ米國砂糖業者・農民等を壓迫し、又比島人の勞働者が無制限に入國して米國の勞働者を脅かした。そこで米國の砂糖業者・農民及び勞働者は、比島からの移入品に課税若くは制限を加へ、比島勞働者の入國を禁止せんが爲めに、比島獨立を希望するに至つた。更に政治的にはかねて比島獨立を公約せる民主黨が一九三〇年十一月の選擧に於て議會に多數を獲得したことである

かくして一九三〇年以來上院の「領土及び島嶼委員會」並に下院の「移民及び歸化委員會」は比島獨立問題に關して調査を遂げ、兩委員會は獨立の時期等に就ては多少意見を異にしたが、比島獨立といふ點に於ては一致し、かくて出來たものがホース・カッチング法案である。この獨立法案は一九三二年四月下院を、十二月上院を通過したが、フーヴァ大統領は之を拒否し、その理由の一つとして極東の不安を暗示した。又スチムソンも獨立案を以て「極東に於ける米國勢力に對する償ひ難い打擊となるであらう」と叫び、獨立の許與は極東の現狀に於ては不可なる旨を聲明した。然るにも拘らず獨立法案は翌年一月には下院、四月には上院を再び通過して大統領の拒否權を無效ならしめた

然しながらこの獨立法案は十月結局比島議會によつて否決された之が修正を米國議會に要望した比島側の反對理由は（一）比島獨立後も米國が陸海軍根據地を保留するは同島の獨立を著しく制限する（二）比島政府成立後の試政期間十年は長きに失し、同期間に於ける米國大統領及び高等辨務官（總督制は廢止）の權限が大き過ぎる（三）同期間に於ける米比間の經濟關係に關する規定は比島にとりて苛酷であると云ふにある

ルーズヴエルト大統領は本年三月二日比島の修正要望を考慮せる特別教書を議會に送り、米國の與論も比島獨立を支持して、第一次獨立法案に修正を加味したマクダフイ・タイデイングス法案が議會に提出されるに至り、下院を三月十九日、上院を二十二日大多數を以て通過し、二十四日大統領の署名を得、五月一日比島議會も之を受諾したので、茲に獨立問題も一段落を見たのである

此の獨立法案の骨子は（一）比島憲法會議を開催し、比島コンモンウエルス憲法を採用して新政府を組織し（二）新政府成立後十年にして獨立を許容し（三）新政府成立後米國陸軍根據地を放棄し（四）海軍根據地は放棄せず、但獨立二年後大統領は比島政府と本問題を交涉し得（五）米比の經濟關係は新政府成立と共に漸次調節すること等である。第一次獨立法案と第二次獨立法案との相違は軍事根據地に關する點等を除けば輕微である

最後に比島獨立問題は謂ふまでもなく米國の內政問題であり、我國には直接關係がないが、米國が獨立完成後二年以內に米比間の交涉によつて或は比島海軍根據地を放棄することは、米國の太平洋國防線をハワイに引揚げることを意味し、我が海軍に重大なる關係を有する、又獨立法第十一條には米國大統領に比島中立化に關する交涉を諸外國と開始する權限を與へて居る。我國はその健全なる外交政策に立脚して進んで比島の永久中立を保障すべきである。かくてこそ初めて米國は安心して比島を獨立せしめ得べく、日米海軍擴張競爭を防止し、太平洋の平和を確保し得ると思ふ次第である

京都市主催 綜合美術展の感想

有島微笑

藝術家、云ひかへれば職業的藝術家には一寸特別の心的狀態があるように見ゐる、それはその藝術家達にはむしろ當然な事が多いのだが、藝術はこれを純粹に取扱つて藝術家の生活なんかには全く無關心な人々にとつては甚だ解し難いものだ、こん度の綜合展の如きわけもない體しのやうであるが、中々あれで大成功と云つて差支へない、あれ丈の成果をさめ得るものは東京を除いては京都のみと云ひ度い

多くの藝術家はその藝術生活と經濟的生活とが並行しない爲に自己の作品に對して甚だ神經過敏な取扱をするものである、そして屢々蒙つたであらう畫商の如き中介者の不正に懲りて、自己の作品を一時寄託することに就ては、極度の不安並に不快を感じ、又官傳のみ大にして低劣な擧行の景物に利用さるゝ事は恐らく多少藝術的矜持を有する藝術家の最も恐れをなすところである、現に東京に於て高貴を推戴し美術界の古豪を背景として、なほ此の醜態を天下に暴露した展覽會が近年あつた、實に油斷も隙もない

況んや地方出品に於てをやで、今回の綜合展が如何に京都の藝術的信用が厚いかを如實に示したものと云ふ事が出來る、横山大觀氏がいち早く出品すべき作品を發表したことなどは、地方出品者に非常な安堵と刺戟とを與へた事は違ひない、又京都側の主腦株總出陣の戰も、既にこの展覽會の成功を豫約したるものであつた、今回出品者資格を規定したことは、出品者に展覽會レベル高上の豫期を促した事も亦確である、只京都中心である爲めに京都側に規定の適用が寛である事は當然であるが、無鑑査なることが却て緊張を缺いた大幅を持ち込むと云ふ結果をも起したのは止むを得なかつた

出品が一人一作であることは、集團的な迫力を示さない代りに和やかな空氣を釀した、會の性質上集るものに尨大なる作品が少くないのも却つて落着いた、然し彫刻部はあまりに小品すぎた、彫刻出品は殆んど東京からのおかげだ、運送の爲に壞れ易い彫刻部は出品者に大作を送らせることを臆病にさせる、帝展に見るような醜惡な裸像の林立に惱まされることはないが、小さいからといつてさう親しめる物ばかりでは無い

垢ぬけのした平櫛田中氏作の夜半物などはその稀れな一つである北村正信、新海竹藏氏等技巧はあざやかだがそれ以上に何物もない藤川勇造氏のW氏など吶辯な技巧で表現し得たものは遙かに大きい金子九平次氏のやうな滑かに力のない木彫にブルデルを戸迷ひさせるなんか未だに形式偏重が新人に禍してゐる、佛像彫刻はその形式一點張りだがそれでも明珍氏の如き經驗家作が却て平凡で、眼彩亦卑賤らしく失望させられた

彫刻中には第四部の工藝にも入るべきものがあるが工藝も品目が多くて一口に云ひ盡し得ない工藝の發展はどうしても新技法を見出すことにあらうと思ふがそれが皆失敗に終つてゐる、要するに借物だからであらう、從來の型物を極めて手際よくやるそれ丈けでも今日の工藝品では最大の尊敬を以て迎へらるべきだ

出品畫ぶれは殆んど帝展中心で本展の特色と云ふものはあらはれてゐない、只入國早々のバーナードリーチ氏の作品をとらへ得たのは大に機敏であつた、名實異彩である。日本畫部が吳越同舟したのは實に興味がある、そして皆相當力作に近きものゝ出品を見たことは愉快である、相互に少くも作戰がない、大觀氏も栖鳳氏も、關雪氏も掌手をつないで並んでをるから面白い、少くも作品上は泰平である、皆樂々とした仕事を見せるから日本畫部は洋畫部より安心して見られる、從つてどれと云つて問題になるものも無い、昭和九年度の日本畫界は先づ非常時では無い

仕掛けてくるのはむしろ西洋畫からだ、藤田嗣治氏、青木大乘等氏はどこらへ入れていゝか聊か迷はされる、それは然し戶籍の方でだ、西洋畫は、あばれ者の從者が皆お伴を遠慮させされて居るから存外打ち見たるところは穩健なもので、そのまゝ帝展へもち込んでもよささうな位だ數多い私展の成因が眞に藝術的な操守の爲からでないなら、いゝ加減に解體して一個の官立展と畫商展とが對立するのも惡くはなからうかなど考へさゝれた

出品畫は、皆相當のところを出した、京都側にはやゝ程度の低いのがあるが、これは仕方がないとして、知名作家中に豫想を甚だ裏切るものゝあるのは殘念だ、伊原宇三郎氏もよくない、ことに木下美謙氏の作の如き、いかにしても穩健な寫眞など誰しも辯護出來まい、熊谷守一氏はいつもの事で然ることながら、小林新作氏の極小品もあまりに見くびり過ぎた、日本畫の方にはこんなのは無かつた以上いさゝか、消極的な見方だがさうさせられる程にこの綜合展の空氣は平靜である、然し甚だ有意義な結果を得たことも確である、毎年續行し得るものなら勿論さうありたいと望む者は獨り市と美術家だけではない

內外時事

櫻の散りぎはが如何にたゝへられ、ツツジの殘花かどんなに厭がられたにしても、重任を負ふ一國の首相たる者が、草花の自然に倣ふわけにも行かず、自力更生の例外で、西園寺といふ他力によつたにしても、ともかく更生はめでたし▼その更生齋藤內閣の大看板の一つ—教育制度改革の指導原理は、「知育第二」とあるは一層めでたいが「知識よりは人格」、德育第一、粘土細工をするやうに、學生の「人格」を捏ねあげようとする機械工作は教育ではない▼時代はむしろ知の貧困時代、日本人はもつと科學に生きる必要あり、知に徹する過程に識見も啓け、意力も鍊られ、出所進退の節義も學び得る次第▼古の聖人君子に學者ならざるはなく、一技一能に秀づる者に讀仰すべき人格の輝きを見る▼四月七日生れの者は滿六十年目の學年を留任すべしとて、小野塚東大總長は鈴木梅太郎教授を留任させた▼留任する者、留任させた者、日本斯學界の最高水準に居り、この今樣大岡裁きに、知に磨かれた德の光りを見る▼知に徹して惡德生ずる筈なく、知に徹する過程に於て德を修め得ずとすれば、知に徹せしむる方法に過誤あるためではないか▼だが、知識—學問は、困つたことには「現在」に叛逆する性質を多分に持つ▼若し知識の叛逆性を道德で殺し、知識の進步性を「人格」でスポイルする手なら、「知育から德育」へは、現代の矛盾の産物であり、そして矛盾の累積でもある▼勿論、そんな意欲が無意識裡にも働いてゐないを、人格主義者齋藤首相の名に於て確信しよう▼兼任ではいけない早く專任を、といふ聲に對して、首相は「急ぐに及ばぬ」とすましてゐる▼洵に然り。苟しくも一國の總理大臣だ。人格第一主義の文教府首長たるに不足あるべき害はなく▼若しありとすれば、人格第一主義の國で、人格者ならぬ者でも總理大臣が勤まるわけにもなりまた現實には、齋藤子の人格に不足ある次第ともなつて、人格第一主義に破綻が起る▼南元文部次官松本及び堀川の兩元大學教授が文相の椅子をあてがはれて、尻眼にかけたを勝利といふ者がある▼「文相なんて、そんな大任は柄でない」といふ謙遜からではなく、あんなウルサイ椅子、弗食は御免だといふ氣で蹴飛ばしたとし、蹴飛ばした者を氣が利いてゐると見るのは、文教を輕蔑するもの▼鳩山前文相も歲と閱歷を累ねた五年後ならば、當然にあの椅子を蹴飛ばした筈▼この始末では、如何に學制だけを、その式に整備してみても、人格第一主義は看板に終るべく、更生內閣の三大政策の一角は崩壞のほかなし▼名古屋での關西醫師大會で「開業醫の看板、廣告に學位を書かぬこと」が議決せられた。學位は學問に與へられたもので、醫業に關係はないからといふ理由は尤も千萬▼醫學卽醫術でなく、開業醫は醫術師たるべく、又たるを以て足るとすれば、醫學を表象する學位を賣物にするは、確かに羊頭狗肉の欺術である▼博士の濫造から贋造までの防止にもなつて目出度いことだが、實現は程遠し▲「徴兵猶豫の特典あり」が露骨になつて、「出席せずとも……」となり、東京諸大學で此の特典を賣物にして收容した學生だけでも四百名を數へ▼軍部も見かねてお手入れとなるらしく、「敎育報國」を看板とする「學校商賣」の眞相暴露は笑つて濟まされず▼だから「人格第一だ」といはるれば、一言もなし。理窟を申上げて誠に申譯なしと引下るほかない。

「文藝復興」について

西臺美智雄

僕たち青年の心は暗憺たる時代の闇に鎖されてゐる。僕たちは三年後における自分を想像してみることもできない。「一九三六年」が死の淵ののやうに僕たちの前にたちふさがつてゐる。青年は明日を知らない。

この一色の闇にぬりつぶされた時代に、なぜ「文藝復興」といふ現象があり得るだらうか、と私は考へる。

かつて青年の情熱は滔々として人類の解放運動に赴いてゐた。今日、しかし更にすさまじい時代の相がこの情熱をさへ佇立させ押しもどしはじめた。多かれ少かれ、外部にむかつてのみ緊張してゐた精神が、こゝに意志的な情熱によつては割りきれない自我の人間的側面を意識し內省し分析しだしたこの自己分裂を意識しつゝ現實の痛苦を忍從しなくてはならぬ第二の處世態度に直面するとき藝術的直觀の世界に生きるとが、少くともその最もふさはしい一つの形態となるのだ、と私には思はれる。

あたかも最近、第一の論者は書いてゐる、作家はつねに自己を危機におかねばならぬ。第二の論者は書いた、藝術は時代の苦惱を全身にひきうけてたじろがない義務感をもつてゐる、等々。

まことに藝術家は自己を現實にうちあて、さいなみ、その反響に聞きいるといふ特殊な運命をになつてゐる。かれらは自己を實驗臺にのぼせることによつて、人間性の神秘を客觀する。永遠の苦行者であることに甘んじ、自己を不幸者とよぶ權利をもたないのが藝術家である。

進まうとして斷崖にはゞまれ、退いて時代の闇に妥協するに堪へないものは、こゝに虐げられ鞭うたれる自己苦惱の姿をマゾヒステイックに享樂する道を、文學に求めはじめた。

文藝復興時代といはれる今日の文學を讀んで、第一に感じることは、何といふ暗さであらう！といふことだ。ひとは現實に唾をはきかけつゝも、その聲はあまりにふかい時代の闇のなかにうつろに反響するばかりだ。そして無力な自己への反省は、ともすれば自己嫌惡に陷らうとする。

それではこれはまことの文藝復興ではないか。私は復興であると考へる。

人間性がそれを實驗することによつてのみ、ますますふかいあたらしい鑛脈を露出してくるものであるならば、今日こそ、きびしい凝視によつて、人間性の神秘がほりだされ得る時だ。

印度の富に血ぶくれしたジョンブルが片々たるチウインガム文學（？）しかもちねず、ツアール・ロシアにおける民衆呻吟の聲こそがドストエフスキーからトルストイゴーリキイに至る大文學のすぢがねをなしてゐることを思ふならば……まことに私は今日におけるドストエフスキーの復活を意義ふかいことゝ考へる、つねにその時代の十字架をになつて步いた彼こそ人間性の深淵をのぞいた第一の人であつた。

私は、作家よ、さらに苦惱し、そのたうちまはれと云ひたい。そのとき文學の大殿堂がきづかれるだらう。

係曰く—筆者住所を通知あれ

京のグラウンドを一めぐりする（下）

西伊佐夫

水泳競技用のプール二つ

水泳競技用として公開されてゐるものに市立二商プールと八瀨遊園地附屬プールがある。二商の方は、中でも他に誇るべきもので長さ五十米、七コース、外にダイビング用として三、五、十米の飛込臺の設備もあり觀覽用のスタンドの設置も申分ない。關西インターカレッヂも行はれてゐることを思へば想像つくことであらう（寫眞は二商のプール）八瀨の方は叡山電車の經營するもので二十五米プールであるが、今までは堂々水上競技聯盟の公認プールとして活躍したものである、コースは六ツ、谷間の水を引いてゐるため水溫の低いのが難物であるが、京都日出新聞主催の小學兒童、及び女子中等學校水泳大會會場はズッと此處であり過般のオリンピックに出場した横田操、蒲田芳江の兩孃が五十米背泳及び百米自由形にそれぞれ日本新記錄を作つたのも、同社の大會であり、同プールでの產物である。この外京都體協の明治神宮豫選もここで開かれてゐた。

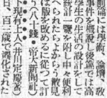
農大前　若葉屋洋服店　電上六六三三番

以上で大體京都における所謂大衆的スポーツのグラウンドを紹介したつもりであるが、最後に少しくブルジョア向く？　スポーツであるが京都にも〝あるにはある〟といふ程の意味合に於て山科のゴルフリンクスの事を書いて終ることにする。

京に一つのゴルフ・リンクス

このリンクスは正確には〝京都カンツリー倶樂部〟と稱さるべきもので、場所は東山區山科東野町字井上、京都市內から自動車で二三十分、コースは九ツ、廣さは二千七十五ヤード（約四萬坪）フラット・コースである。四季いづれも適してゐるが、メンバー・システムになつてゐるから入會しようとする人々は同倶樂部の會員二名以上の紹介を經て申込み、委員會の承認を得たら入會金五十圓を納めねばならない。毎月の會費は五圓會員はコンペチション以外の時はVisiterを同伴し得るが、このVisiterはGreen Feeとして金二圓（日曜祭日は參圓）を納付することキャデーは會員は一日が一圓、半日七十錢、ヴジターは二時間で四十錢となつてゐる（完）

新刊



◇植物の生活（テイミリヤーゼフ原著・石井友幸譯）「若い人たちに教へなければならない主な事柄は或物が見ることである」植物の生活から遠く離れて都會に呼吸する若人の爲に植物が如何に生れ、生活するかを全體として有機的に統一的に解說した著作である、原著者は新興ロシヤに於ける植物生理學者或は生物哲學者の第一人者（一圓八十錢・興學會出版部）

◇帝國大學年鑑（帝國大學新聞社編）國民の何パーセントかを占める學生層、インテリ階級の便宜の爲めに帝大新聞社が編輯した四六判三百頁の冊子、學界篇、學生篇に分ち、前篇には學術、論壇、教育の主要事件を槪說し後篇では高校生、大學生の生活の設計をして居る外に統計一覽を附し中々便利で各自備へられたらよからう散見する小疵は版を改めるに從つて訂正されやう（八十錢・帝大新聞社）

◇高僧山下現有上人（井川定慶著）四月十一日、百三歲で遷化された智恩院第七十九世山下大僧正を追悼して愛弟子たる井川氏がものした書（一圓廿錢・政經書院）

◇明治文化研究　第二輯（明治文化研究會編）最近著しい明治時代再檢討を文化史的に把握せんとする明治文化研究會クオタリーの第二輯、板垣洋行問題、十四年政變、或は田中貢太郎氏の旋風時代批判等多角度的な好論文十七を納む（一圓五十錢・書物展望社）

◇近世哲學史上卷（フオイエルバツハ著、松本義雄譯）ヴエルラムのベーコンよりベネデイクト・スピノザまでの近世哲學史を內容とする、彼の哲學體系の根據は確かにヘーゲルの刺戟に迄さかのぼるのであるが此の歷史的勞作に於ては決して單なるヘーゲル學徒としてではなく寧ろ批判的立場が精神的獨自性を躍動せしめる意味に於て期待される（政經書院定價一圓八十錢）

丸善の新刊及重版書

（發行所）東京・日本橋通
丸善株式會社
東京＝神田駿河臺下・芝三田・早稻田・丸ビル
大阪・神戶・京都・名古屋・橫濱・福岡・仙臺・札幌・京城

憲法學
慶大教授　山崎又次郎著　菊判一〇一〇頁　定價八圓五十錢　送料三十錢
本書は實證的見解を以て我公法學界に特異の地位を占むる著者が內外の諸憲法の研究と、騷然たる市井の實際生活中に體得完成せる一の綜合的科學としての憲法學の見地より、憲法そのものの觀念、國家の本質、民主政治と獨裁政治等憲法上の諸問題に縱橫のメスを揮ひ獨自の解釋を下せるものである

憲法總論　山崎又次郎著　定價二圓五十錢　送料十四錢

交通經濟總論
慶大教授　增井幸雄著　菊判四七四頁　定價三圓八十錢　送料二十二錢
本書は交通經濟に關する一般理論を明快に敍說せるを以て多大の好評を得たる舊著「交通總論」の改版であつて交通の本質發展手段並に之に伴ふ諸現象を理路整然と闡明してゐる。所載の統計表は最新の調査に依り、脚註を增すと共にその新見卓說は愈々光輝を加へ現下の諸問題に好箇の道標を提示する。

自動車運送の經濟學的研究　島田孝一著　定價三圓三十錢　送料十四錢

會計學
慶大教授　三邊金藏著　菊判四八八頁　定價三圓五十錢　送料十四錢
本書は所謂三邊式會計學を完全に學界に確立せるものにして、全篇十三章、附錄五項に亘る著者の明解透徹な見解は從來漠然たりし會計學の意義を決定し、貸借對照表の靜態說を拒否して動態說を採るが如き、またシュマーレンバツハ說を著者獨自のものに發展させる等遠慮なくその獨創を示す名著

FOREIGN TRADE BUSINESS METHODS
ON JAPANESE PRINCIPLES AND PRACTICE
BY
DENZO K. KOYAMA, M. B. A.
WITH A FOREWORD BY
EMORY R. JOHNSON, PH. D., SC. D.
外國貿易業務論
產業日本の現狀に即した
從來巷間の類書は槪して直輸入的なるものにして、他國の傳統的な形式と習慣とを述べるに止つてゐた。著者は之を遺憾として最近の實究と斯方面實際家の協力を得て最も特色的な本書を編纂した。使用の語句はすべて現今の生けるビズネス・イングリッシュにして我國に於ける英文で書かれた唯一の文献である。
菊判290頁　定價2圓80錢　送料14錢

帝國憲法皇室典範 義解	伊藤博文著	[illegible]
比例代表法と多數本位代表法	山崎又次郎著	[illegible]
テリー氏 法律原論（英文）	H・T・テリー著	[illegible]
テリー氏 普通法（英文）	同	[illegible]
英國商事法規集	法學博士 高柳賢三編	[illegible]
訂正 外交及外交史研究	法學博士 松原一雄著	[illegible]
滿洲事變と不戰條約國際聯盟	同	[illegible]
恐慌と世界經濟	慶應義塾金融研究會	[illegible]
日本封建經濟史	法學博士 瀧本誠一著	[illegible]
歐洲經濟史（中世の部）	同	[illegible]
同（近世の部）	同	[illegible]
物價問題	高城仙次郎著	[illegible]
工業政策	法學博士 氣賀勘重著	[illegible]
農業政策	同	[illegible]
小農に關する研究	農學博士 横井時敬著	[illegible]
經濟學讀本（英文）	チヨーンズ著	[illegible]
經濟學選集（英文）	樋口[illegible]	[illegible]
文化科學讀本（英文）	法學博士 佐々[illegible]	[illegible]
改版最新 商品學講義	西依六[illegible]	[illegible]
再訂 內外商業政策 上卷	商學博士 小林行[illegible]	[illegible]
改訂增補 高等商業數學	同	[illegible]
商業數學教材	經濟學士 佐々木道[illegible]	[illegible]
商業數學教材（問題集）	同	[illegible]
複利・年金及賦金表	同	[illegible]
世界商業史 總論古代篇	野村兼太[illegible]	[illegible]
證券市場組織—企業金融の社會的組織	向井鹿[illegible]	[illegible]
配給市場組織—財貨移動の社會的組織	同	[illegible]
取引所の理論的研究	同	[illegible]
米國信託會社の經營と組織	川崎貞[illegible]	[illegible]
社會保險の本質	商學博士 末高[illegible]	[illegible]
商業之知識（英文）	岡田市[illegible]	[illegible]
外國貿易實踐提要	米谷彥次[illegible]	[illegible]
中島 英語商業通信	中島鉄[illegible]	[illegible]
ブレー氏 商業通信（英文）	H・F・ブレー著	[illegible]
ブレー氏 商業通信書式（英文）	同	[illegible]
最新 商用及公用 英作文の理論と選集—（附）解題註釋・別冊	山崎宗[illegible]	[illegible]
銀行信託保險と業務商業 現代英語—（附）解題註釋・別冊	同	[illegible]
解題註釋 タイムズ英語敎材（全十冊）	同	[illegible]

原田、田島の兩君　ほがらかに勝つ

「跳躍日本」を双肩に荷ひ　極東大會で奮鬪

跳躍日本を双肩に負ひ、衆望を荷つて去月廿九日極東陸上選手權大會に出場のため神戸を出發した本學陸上競技部原田、田島兩選手はマニラ到着後も元氣盛んで、十六日の走巾跳決勝には兩選手揃つて出場、期待に背かず陰鬱な天候にもかゝはらず、田島選手は七米三十で優勝の榮冠を獲得し、原田選手も續いて六米九六で二等に入選した、また十八日の三段跳決勝では雨上りのフイールドに原田選手は一四米九五、田島選手は一四米三〇を出して二、三等に入選し日本陸上競技界のため萬丈の氣をはいた、三段跳の優勝者大島選手は走巾跳を止めて此の決勝に全力を注いだもので、田島、原田兩選手の活躍は實にめざましくも見事なものであつた

對同大陸上競技

三日農大運動場で

堂々たる本學の陣容

既報のとほり第十回本學對同大陸上競技對抗試合は來月三日午後一時から農大運動場で行はれるが、近來めづらしく本學の陣容が整備してゐる上に春以來猛練習を積んでゐるので優秀な記錄を期待され昨年度法學部紛爭の餘波で立ち消えとなつた本試合は多大の興味をもつて迎へられてゐる

同大軍は老巧長瀬主將を中心に高橋、松本、横山等の強豪を擁し新進を呼應して本學陣に突進して來ることであらうが、本學軍には岩田主將が中長距離に頑張り、原田、田島のオリムピツク歸りが疲れを押して出場し、飯室、千田兩君も初舞臺でジヤムプに奮戰し、短中距離に白石、松本、熊野、西郷、齋藤、本山、中田、芦田等多士濟々で水も漏らさぬ堅陣を作り、棒高跳には星（舊姓吉岡）君が元氣倍舊で和田、眞島兩君の側役で同大の松本君とセリ合ふだらうが、投擲でもまた川島、常塚、松野、德永のメンバーを以て奮鬪し、ハードルには柳井、吉村、千田、加藤の四君が先陣を爭ひ、何れにしても必勝の意氣で當日を待つてゐる

またオリムピツクの日取りが順延になつたので、原田、田島兩君の歸學が遅れる虞れはあるが、一同結束して當日の奮鬪を誓つてゐる

經濟學部對三高戰

第一回陸上競技會は二十六日午後一時から本學運動場で行はれる、夏の對一高戰に備へて元氣一ぱいの三高軍に、經濟學部の白石、星、高野、青木、西郷、和田等のメンバーで大童になつて對戰するが興味あるせり合ひを展開するであらう

雪辱成るか

對阪大工學部ボートレース

廿七日瀬田川で

本學工學部と大阪帝大工學部とのボートレースは、その第一回を昨秋十月二十二日瀬田川で擧行、大接戰のすゑ一艇身の差で本學の惜敗となつたが、いよいよその第二回戰を來る二十七日午後二時半から瀬田川で決行する、

わが工學部クルーはさる十三日の學部對抗レースで、法經クルーをやぶつた最强クルーであり、餘勢をかつて一擧に阪大を屠らんと猛練習をつゞけてゐる、當日は朝からアマチユアレースもあり、多數ファン諸君の聲援をのぞんでゐる

工學部勝つ

法經學部惜敗

瀬田川の對學部競漕

第二十七回學部對抗競漕大會及び學內競漕大會は去る十三日瀬田川コースで行はれたが、工學部クルーは昨年優勝した農學部クルーを第一回戰で敗り、法經學部クルーと再戰、遂に優勝の榮冠を荷つた當日の記錄は左の通りである

【第一回レース】

一着法經クルー　五分五十五秒

二着醫學部クルー　艇差二艇身

一着工學部クルー　六分四十秒

二着農學部クルー　艇差二艇身

【學部優勝レース】

一着工學部クルー　六分十八秒

二着法經學部クルー　艇差一尺

なほ中等學校レースでは奉公園第一組が優勝し、フオアシエルレースでは同大クルーが優勝、固定席招待レースでは京都大丸クルーが本學學生課クルーを敗つて優勝した

引き續いて　連勝の卓球部

中國、四國地方に遠征して連勝した卓球部は引き續いて去る七日から京都學生卓球聯盟第一部リーグ戰に出場し、龍大、谷大、立大を左のスコアで敗り、殘す所對同大戰のみで優勝の榮冠は殆んど確定的に本學のものとなつた

本學四――一龍大

本學四――一谷大

本學五――零立大

關西學生聯盟卓球大會

春期チーム大會は本日午前八時から本學學生集會所で行はれるが本學軍は上野主將以下鈴木、松下、福森、矢木、宮崎のメンバーで出場、第一部の同大、關學、神戸商大、彥根高商、浪高、大阪外語、大阪齒專と對戰し必勝を期してゐる、また同聯盟の春季個人選手權大會は廿七日午前八時から本學學生集會所で行はれるがこれは七月に行はれる**東西學生選拔試合**の豫選をかねてをり、本學上野主將以下十四名出場し大いに奮戰することになつた

對東大戰の魁け

ホツケー對抗試合

廿七日農大運動場で

既報のとほり對東大ホツケー對抗戰は廿七日午後一時半から農大グラウンドで行はれるが昨年の敗戰の雪辱をせんものと本學ホツケー部員一同は四月の合宿以來猛練習を續けてゐる

勝敗は容易に豫斷を許さないが東大軍はFWに新進のスタープレヤーを並べてをり、スピードとステツワークに優れた空前の充實を見せてゐるとのことで、これに對し本學軍はFBとGKに丸毛、津輕、清水の三君を以て守備の完璧を期し、HBに笠木主將を中に佐原、井田兩君を配して自由な活躍を望み、FWには清水（信）太田、柏熊、櫻井飯田の新鋭鬪士を揃へてその奮鬪に依つて一擧に敵陣を亂さうと構へてゐる

かくて對東大戰の魁として當日は相當エキサイトしたゲームが見られるであらうが、本學軍には新進選手に一段の奮鬪が望まれてゐる

會費値上げ成功して　增收四千六百餘圓

これを財源に高等工藝跡に　移轉する學友會

既報のとほり高等工藝あとをどう利用する?については過般來學友會關係や會計課でいろいろと頭をひねつてゐたが今のところ差當り庭球部と排球部のコートを作り、馬術部の馬場も移轉することになつた、どちらを向いても財政難のおりから、學友會の會費を値上げして入學料と共に徴集して幾分の緩和策を圖つたのであるがその結果は、案外にも納入者は昨年よりも減少した、然し會費は昨年度より四千六百八十一圓の增額を見、漸くにして右の移轉費用なぞを支辦する途が立ち、臨時役員會は六月八日頃に召集されることになつた

スタヂオ廻覧　バスに乘つて

□□□□

松竹下加茂

いよいよ終點、下加茂松竹京都撮影所です、こゝはいま「月形半平太」の撮影に、蒲田から水久保澄子、及川道子、八雲理惠子らが藝妓舞妓に扮しての應援で、なかなかにぎやか、しかしわがスタヂオ廻覧バスは、かゝる

娘子軍には　目もくれず

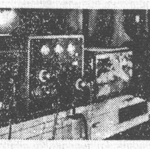
たゞこのスタヂオを背負つて立つひと二人の紹介で、そのあわたゞしいコースを終るのです、その二人とは、土橋武夫氏と衣笠貞之助監督……

×

一九二八、九年映畫史的にはトーキーが世に出る一年か、二年前大阪松竹座のうす暗い樂屋部屋に兄弟の音樂家がゐた、一人はセロを、一人はヴアイオリンを……しかし二人とも暇さへあれば默々として無線機械を、ラヂオをひねくり廻して、他の種の音樂よりもこの方により多くの興味と、希望とを持つてゐるように見えた、この松竹座の舞臺裏

日本トーキーの歷史は

思ひがけなくもこゝに光輝あるその最初の頁を見出さねばならなかつたのです、この二青年こそ、いまの土橋式松竹フオーンの發明者として國產トーキーの第一人者の名をほしいまゝにしてゐる土橋武夫晴夫兄弟であつたのです、トーキーといふ、映畫界を廻轉させた大きな旋風に一たまりもなく職をはぎとられた幾多の劇場音樂者の悲慘を前に、二人は同僚からパンを奪つたその呪ふべきトーキーによつて、皮肉にも一卷の立志傳を編むことゝなつたのである、一フイト〇錢といふ莫大な權利金、トーキー研究のためにアメリカ三涯を茶飯事のように往復しうるその悠悠たる生活は、しかし彼等の天才と努力とに酬ゆる當然のものです



日本トーキーの凱歌「マダムと女房」以來土橋兄弟が矢繼ぎ早に發表した幾多の技術的成果は今日彼等のハイ・レインヂ・エンド・ノイズレス・レコーヂング（High Range and Noiseless Recording）からワイド・バンド・レコーヂング・システム（Wide Band Recording System）の完成まで、國產トーキーを世界的レベルに引上げ得たのであります、弟の晴夫氏はいま渡米中、武夫氏は下加茂スタヂオの研究室で、はてしない機械との鬪爭をつゞけてゐるのです

×

つぎは衣笠貞之助監督、彼も奇妙な半生を持つてゐます、日活向島スタヂオの一女形役者が映畫へのスタートでした、映畫監督への轉業後も、その纖細な感覺と特異な表現で

衣笠イズム　を作つたが

映畫魂を　見失ひはし

ないかと言ふ心配が、心ある人達にフト不安の影をかすめるのですが……（寫眞は松竹下加茂の錄音室と土橋武夫氏）（をはり）

滿洲みやげ話

生命線どころか　滿洲は運命線

◇……石川教授談

私は初め支那へ渡り、それから滿洲を視察し、朝鮮を通つて歸つて來たが、今度の視察は農村問題の喧しいおりから民間の生活を主眼としたものだつた、支那では白河を溯つて天津から北平へ行つたが先づ第一に宮城や城壁の壯大なのに驚いた、その大きさと美麗なことはベルサイユ宮殿も遙かに及ばぬもので、蔣介石が南方へ多くのものを持つて行つても猶金銀美玉觀る者を驚倒せしめる程である、此處で思ひ當つたのは君と民の關係の特異な點で、王朝が屢々變るにつれて民を威嚇するための所謂威嚇文化が發達し君主の實生活は實に簡素なもので、また人民の生活程度も非常に低いのに較べて、萬壽山、八達嶺の豪壯なことは特に此の感を深からしめる、又燕京大學でも學舍の壯麗さが眼についた總て支那では國際資本の入つたものは立派なものである、大連から哈爾賓へ行く途で奉天へも寄り、滿洲の經濟設備も見た、哈爾賓では露西亞人の造つた立派な住宅地や科學的に出來てゐる博物館を觀て露西亞人の偉いところも窺つた新京は新興氣分横溢して大道路、大官衙建築物等には支那樣式をとり入れてゐる日本人の町、例へば新京銀座と云はれる所なぞ露人の町に比して如何にもみすぼらしい、然し日系官吏や滿洲國の樞要な地位に在る人人の態度は實に眞劍で、縣參事の人人にも會つたがその態度は感動すべきものだつた、日本のために、そしてまた滿洲のためにと意氣込み鋭く、將來この人々の自覺的な大同團結に期待すべきもの多いのを沁々と感じた、軍部の首腦部も能く滿洲の事情を自覺して農民の生活を安固にし、今の餘りにも低い生活からもう少し人間的な高い生活をと念願されてゐるのに敬服した、何と云つても日、滿兩國家双方の永遠の利福を念頭に置き、島國根性を出さず、目先きの利得に拘らず、かりそめにも一方的な利益を求めず進まなくてはならないと思つた、滿洲の農民は實に純眞で、今迄に支那の下で良い政治を受けてゐないから、今後農民の生活を安らかにするため治安維持に力を注ぐ一方、經濟生活と共に教育に努力して理智を啓發することが必要であり、良い政治を行ふ者を親の如くに慕ふ農民を育んで行かねばならぬと思つた、また滿洲において日本の執る政策如何によつて滿洲國が生命線どころでなく運命線となるであらうとも感じた、滿洲は支那社會と日本國家とが結び着くところである、私はかくて支那を通つて滿洲を視察して以上の樣な感を抱いたのである（文責在記者）

日滿經濟統制を

目前の利益に迷はざる

◇……牧教授談

支那では古代的な國家と社會との遺物が未だに殘つてゐる樣に見るのに、他方には日本よりも急進的な西洋化が進行しつゝあるのを見た、支那に缺けてゐるのは胡適氏も言へる如く組織の缺乏だ、富源は豐富で、勞力もあり餘るが、之を現在的組織の下に動かす力がない、殊に國家組織にかけて然りだ我國が滿洲で近代的國家を眞に堅實に建設する事を努力するならばそれは誠に意義がある、滿洲の建國は日本で考へる程容易でない、それには色々理由もあるが、日本としては中外に聲明せる通り、東洋平和の保障となる如き美しい新國家を立てる事に努力すべきである、日滿の經濟統制もよいが、日本の目前の利益を考へてのみ行動し、永遠の大計を失する如きことがあつてはならぬ京大出身の若い滿洲國官吏が眞面目に滿洲國のために活動してゐるのを見て嬉しかつた

朝鮮では此の頃自力更生のスローガンで風俗の改良を奬勵してゐるのが目立つた

嵐山寫生行

京大アカネ畫會

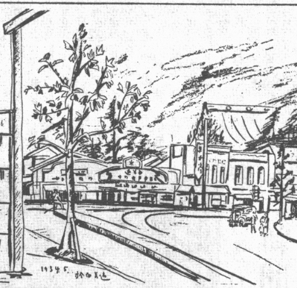
京大アカネ畫會では、來る廿七日（日）太田喜二郎、須田國太郎兩講師と共に、青葉薫る嵐山に寫生をかねてハイキングを行ふ、同行希望者は當日午前九時北野市電停留所に參集、往復電車賃卅四錢持參のこと、尚來る六月十六、十七、十八、十九日の四日間、展覽會を開催の豫定で、一般アマチユアーの傑作を募集中、ふるつて應募せられたいと、申込は共濟部內中西君まで

小西前總長を迎へ

名古屋市で京大クラブの　歡迎懇親會を開く

京大クラブ地方部發會のトツプをきつた東方地方部では會員すでに百名を突破するの盛況を示してゐるが、今回小西前總長の來名を機とし、博士の歡迎會を兼ねて親睦會を五月十二日名古屋市七本松町「寸樂園」で催した、名古屋は勿論遠く津市、岡崎市等からも續々來會、三十七名の多數に上り盛會であつた

◇百萬遍附近　中西清



新會員を募る

マンドリン・オーケストラ

京大マンドリン・オーケストラ部では過日來新會員募集中、入會希望者は、毎週水、土曜、午後七時から三條新京極十字屋樂器店で練習中の會員へ直接申込まれたしと

對東大戰は　十月中旬に決行

東大からの交渉に贊成して

今回東大運動會から、東西兩帝大戰は十月中旬に纏めて決行したいとの申込みがあり、本學でもその頃に運動週間を設ける豫定であるから、各部共に十月中旬に對抗戰を決行することになる模樣である

排球部の　スケジュール

排球部では從來からコート難で惱んで來たが、今回植物園入口の庭球コートを借用することになり、新入部員を加へてすでに猛練習中である、スケジュール左の通り

關西學生聯盟戰

對大高戰　五月廿七日

對三高戰　五月廿七日

對大阪外語戰　六月三日

對神戸商大戰　六月三日

對神戸高商戰　六月十日

對神戸高工戰　六月十日

以上いづれも神戸商大コートで

關西選手權大會　六月十七日　甲子園コートで

なほメンバーは左の通りである

前衞　阪口、落合、村田

中衞　奥野、中山、星野、上野、岩本

後衞　堀井、中村、仲島、藤島、內田

法律研究會

例會は廿五日

本學法律研究會では廿五日午後六時から樂友會館で例會を開催する講師は過般來支那、滿洲、朝鮮の視察旅行を終へて歸洛した牧健二教授、演題は「滿洲の建國と立法問題」についてゞある

反響

街路に水を!

然らざれば　ペーブメントに

銀杏の葉かげから夏の息吹きを送り、松の枝かげから蟬のなき聲もやかましい昨今、上眼瞼と下眼瞼の間に無理につつかひ棒を立てゝ講義を終へ、やれやれと戸外にとび出せば、傲たる自動車の疾走に乾ききつた道路が遠慮會釋もなく埃を目に鼻に口に吹き上げる、リーベが心をこめてブラッシュをかけて吳れた服もくつも臺なし、これは衞生上も甚だどうかと存じます、殊に醫學部構內の埃のひどさ一度自動車が通れば黃塵萬丈も啻ならぬものがあります、大學當局よ、どうぞ至急水を撒いて下さいお願ひします、これは差當つての應急策、贅澤を云へば構內を全部ペーブメントにして、快よい靴の響きを聞かせて欲しいものです、（一文學部生）

五大學リーグ戰　無料入場券を

學友會で呉る

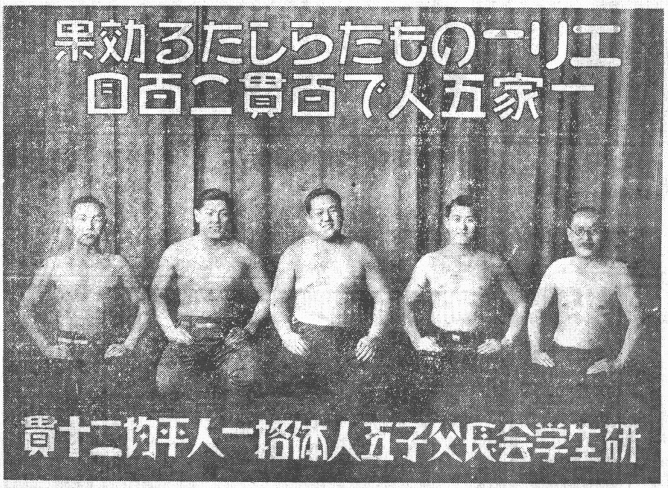
關西五大學野球リーグ戰は甲子園と、京都市立運動場で擧行中であるが學生無料入場券を學友會事務室で交附するから受取られたしとのことである

訂正

既報、醫學部四明會の記事中、會費五圓を十圓に値上げとあるは、十圓を九圓に値下げの誤りにつき訂正す、また**サッカー部**のスケジュール中、對京師OB戰は廿七日午後二時とあるを廿六日午後二時に訂正

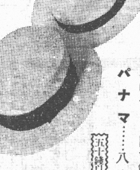
東西

學友會費値上げによつて得られた四千六百圓の使途につき臨時委員會も近く開かれるので十八日の總務委員會で學務幹事から各部の希望を聞かれ、陸上、ラグビー、ホツケー、野球の各部は揃つて運動場不備の苦難を述べて對策をたのんだに對し、音樂部からは「是非防音裝置をしてもらひたい」との希望、これに對し大野學務幹事「きみ、そりや、音樂學校へ行き給へさうすりや、防音裝置でも何でも完全なのがあるから!」これには音樂部一言もなし、次いで人氣者の共濟部決然として曰く「共濟部食堂では、冷藏庫を一つ買つてもらへば、もつとうまいもの食はせます、某食堂では七面鳥を去年のを安くストツクしておいて食はします」これに對して「いくら位金がかゝる?」と聞けば「千五百圓位です」「さうですか、それでは申込みを出すだけは出しておき給へ、もらへるかもらへんか僕は知らんが」でこれも望み少い、とたんに小聲でつぶやく者あり「七面鳥の肉どころか牛の肉もろくに食はさんやないか、千五百圓もあれば それで七面鳥いくらでも買へるわい」



エリーのもたらした効果
一家五人で百貫二百目
研生学会長父子五人体格一人平均二十貫

本部　京都市左京區淨土寺馬場町一二七　電上　三二三三　二一八八



ご 麥稈帽子 パナマ

明色鋪道に跳ね薫風翠綠にそよぐとき夏の水先案內としてスマートな姿でデヴユする 麥稈帽子 パナマ帽 今夏流行を代表する型・編み共に新製品!

麥稈帽子……四十錢―二圓
パナマ……八十錢ヨリ
五十錢以上一割引

京大共濟部指定
山本帽子店
◆熊野神社丸太町上ル東側◆

勞作教育思想史

勞作を楔子とせる教育學の新なる史的展開!

慶文大教授檢委員　小林澄兄著

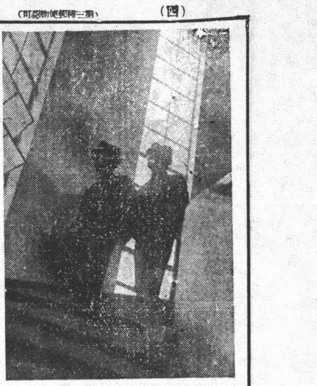
本書は勞作教育思想の意義を明說し、歐洲に於けるその發達を考究批判せるもので、その大部分はペスタロツチ、フロエーベル、ヘルバルト及それ以前の所謂勞作教育前史に盡されてゐるが附錄「勞作教育學」は同現代史を構成し、一卷にしてよく史的勞作教育學の全貌を詳悉せしめる。教育思想關係者必讀の新著である。

菊判四五五頁　價三圓五十錢　送料十四錢

W・デイルタイ原著　文學士栗原茂譯
デイルタイ論文集　價一圓三十錢　送・一〇

F・A・ランゲ原著　文學博士川合貞一譯補
唯物論史 ―現代に於けるその意義の批判―
（上）四圓（中）五圓三十錢（下）四圓　送（各）・二二

東京日本橋通　（發行所）
丸善株式會社
大阪　神戸　京都　名古屋　橫濱　福岡　仙臺　札幌　京城
東京一神田・芝三田・早稻田・丸ビル



學內スケッチ
―松尾忠政―

直木と佐々木と

千葉龜雄

この對立は何の興味か

直木三十五と、佐々木味津三を對立させて、もしくは併立させての議題は、どんなところに思ひ付きがあるのでせうか。まさか、兩木相對するからとか、或はまたら日。三の字が、姓名のいづれかにある十は死の神に招かれてゐるとか、Sの音のあるのが怪しいぞとか、こんな意味から、S、三の二人の大衆作家をピック・アップしたといふ譯でもなからう。手つ取り早く察するところ、この人氣を一杯に擔つた二人の大衆作家が何の因緣ぞや、同年に前後して逝き、死後の文壇や、出版界に、批評の渦を沸かしてゐるといふ所に興味を感ずるからであらう。では端的に、二人の大衆作家を對立させて見やう。

鼻つばしのつよい兩君

二人の大衆作家は、一人の生國は大阪で、一人は愛知、どつちも瘦骨稜々として、關西人らしいゆつたりとした氣分は見れない。どつちも鼻つばしが强く、負けずぎらひで、喧嘩好きで、厄介この上無し、さすがに直木は作物の惡口をされても、ペンの上で叩き返す程度で我慢したが、佐々木の方はそれ位で納まらず、いつか彼の作物が、諸方面からひどい惡評の袋叩きになつた事がある。彼は懷に短刀を呑んで某社を訪づれ、あの匿名の批評家は誰か、叩き斬つてやると、血相をかへてにじり寄つたといふ挿話があるほど、彼は若きで、正直で、野性があつた。小生、三河武士であることを自慢にしただけ、骨つぽいだけ野暮でもあつた。そこは直木と少し違ふ。直木の方がづつとずるい。

佐々木も、直木も、同じ樣に數へきれぬほどの病氣を背負つて、生活と、生活と苦鬪した精力の執拗さには驚きもし、呆れもする。ただ、佐々木は、大家族を養ふ必要上からの苦鬪であつたが、直木は生活といつても、ずばぬけた豪奢な生活をするために苦鬪するのであつた。

先づ處女作から見ると

直木を奇漢とすれば、佐々木は快漢。

私は、作家としての兩木を初期から知つてゐる、佐々木が純文壇の作家として立つた處女作と思へるものを、私は「新小說」で讀んで感心した。地主の何とかいふ題だつたかに思ふが、違ふかな。とにかく、感心して詳しく批評したものだ。直木の處女作は、恐れ入つたナンセンスものに始まる。題からしてが「逢ひに奈良行く」竹林貫七といふ、はなから馬鹿にしたものである。後で「文藝春秋」で、文壇ゴシップに時代をウナらしただけはあつて、何しろ、捕まへどころのない行文のうまさと、人を食つた機智は凄いものと思つた。たしか「苦樂」か、「女性」に出たと思ふが、直木が長篇作家として賣出してからまで無名な才人としての竹林を私は記憶してゐたのだから、相應面白く印象されたものらしい。

大衆作家としての優劣

佐々木は、純文壇をすて、大衆文壇へ乘り出した。直木は、雜文、戯文から大衆文壇を書き出した。佐々木の右門捕物帖が評判になつたのは、たしか、直木がまだそれほど流行兒にならぬ前であつた。が、大衆文壇作家としての才能や、功績からいふならば、正直なところ、佐々木は直木の敵ではない。佐々木の作物を愛讀する程度の讀者には、直木の作物は難解で、理窟つぽくて、面白くないだらう。直木の作物を讀む階層の讀者は、佐々木の作物は、馬鹿々々しくて、出鱈目で、おそろしく興味の散漫なのに我慢が出來ない。私もその一人である。やはり直木は、大衆文壇陣の、第一線に立つ輝やかしい作家であつた。

後ちの世に何が殘るか

平凡社で佐々木の全集を賣出し改造社で直木の全集を賣出してゐる。直木は佐々木などに比べて、比べにならぬほどジャアナリズムの世界を制覇するやうな、絶好の條件を具有して居たからだが、何にしても、彼の死んだ當時の騷ぎ方は桁外れで、反感さへも起る。さて、あらゆる騷ぎの噪音をとり除けて見てもやはり直木が優れた作家であり、優れた大衆作品があり、若干は、後世に殘されるであらうことは爭へない。佐々木の作物は何が殘るか。何が代表作であるか。殘念ながら、その議題に答へる作品はないのではないか。全集には氣の毒だが、正直に語るのだ。私は佐々木の作品も大部分讀んだ。が、いけない。彼は大衆文藝の最主要の條件たる、脚色の構成が得意でない。サスペンスを有效につかひこなせない。事件のヤマを巧妙につかんで、事件の發展を立體的に行進させる全體の見透しを缺く。それに題材が狹く局限されてゐる。彼が生前にも批評界の批評を正直に聞いて、缺點といはれるものを修正して行く時間がもつとあつたなら、と、私はつくづく悲しいのである。

直木の四十何歳かの死は、若いようで若くはない。あれほど多數の作物を殘したら、彼とても遺憾は無からう。私はしかし「南國太平記」を最高峰に置く多數の批評には反對。それから、彼の純文藝がらうとした小說や、現代小說の描き下らなさは、これまた御話にならない。目をそむけたい。この方は彼のアキレス腱。

獲物

竹中郁

1

しづかな部屋で眼をさます
もう感づいて暴れる空氣
わたしの二個の黑い眞珠が
やむなく再び謊をする

2

敷いてある豹の毛皮よ・
答へぬ姿よ
手をあてる
頰をよせる
眼をつむる
わたしの心臟が
わからぬ言葉をしやべりだす

映畫「ドン・キホーテ」

青山唯一

映畫の「ドン・キホーテ」は、原作からポール・モーランが選び出して來た數個の挿話によつて構成されてゐる。パブストが、その挿話群を中心にして、映畫全體を纏め上げたのである

挿話の排列の順序は、左に見られるやうに、原作とは大變違つてゐる。小說では、初めの方にある風車の挑戰や、書物の燒却の話が、映畫では結末に使はれてゐて、效果あるクライマックスを構成してゐるのなどが、それである

左に映畫「ドン・キホーテ」の挿話の構成順序を個條書きにしてみる

(1)ドン・キホーテの出發
(2)羊の大群を敵と間違へて戰ふ話
(3)芝居の王様から、戯れに騎士の稱號を授かる話
(4)囚人を解放する話
(5)カラスコとの野試合の話
(6)風車と戰ふ話
(7)ドン・キホーテの死

映畫的には、最初のドン・キホーテの紹介からその出發までの條と、最後の、風車との戰ひ及びそれに次ぐ彼の死の場面が、最も優れてゐる

パブストは、前作「アトランテイード」に於て、夢幻の中に強烈な現實を織り込んで、不思議な雰圍氣を描き出したのであつたが、今度の映畫でも、ドン・キホーテの空想をダブルエクスポジュアで見せるやうな愚を冒さないで、あくまで現實的な視覺のうちに表現してゐる

馬上ゆたかに鎗をかまへて羊の大群の中に乘り込んでゆくドン・キホーテの「悲しい姿」が描かれてゐる。羊を敵と見た彼の主觀は、パブストの心を捉へはしなかつたのである

彼は囚人の鎖を解いてやる。だが解放された囚人どもは、彼を狂人と見て、彼に石を投げつける。かういふ事件も、あくまで現實的な姿に於て示される。欺かれどほしの高潔な空想家の慘敗を、われわれはまざ〳〵と見せつけられるのである

何といつても一番印象的な此の映畫の結尾の部分を紹介して、此の一文を終るのが至當のやうに思はれる――

ドン・キホーテにとつては、風車は、百姓たちから穀物を奪ひ、その實を領主に與へ、百姓には粃だけしか返さない不とどきな怪物である。彼は勇ましく風車と戰つたが、風車の翼に引つかけられて半死半生の態になつてしまひ、狂人ドン・キホーテとして、領主に捕はれる。家畜車にのせられた彼が、ラ・マンチャに歸つて來る。彼の家の前では、彼を狂人にした所の本が燒き捨てられてゐる

本を燒かれることは、思想を燒かれることである。思想を燒かれては、ドン・キホーテには何も殘らないのである。彼は其處で息をひきとる

一頁一頁黑い灰になつてゆく本が畫面一杯に現れる。太つちよの從者サンチョ・パンツアが泣いてゐる。と、死んだドン・キホーテの歌が聞えて來るのだ。――泣くなよ、サンチョ。我が麗しの騎士は、いま燒き捨てられるが、その後に少くも一冊の本が殘り、萬人に愛讀されるだらう。と、その歌の聞える間に、生き物のやうにうごめく黑い灰が、一頁一頁と本の形に返つて、遂に一冊の本となり、その扉が見えると、それは、「工夫に富める紳士、ラ・マンチヤのドン・キホーテ」なのである

かつてパブストは「アトランテイード」の最後に狂奔する白い砂を描いて效果あるカタストロフを作つたが、今度はまた、たゞ單純に眞黑な灰を見せて、人の心に迫る雰圍氣をかもし出すことに成功してゐる

これは、最近の映畫にかける、最も單純にして最も恐るべき技巧である

最後に一言――ドン・キホーテに扮するシャリアピンは、低音歌手として世界一を謳はれてゐる人である。セリフに幾分難がないではないが、扮裝はよいし、六十二歳といふ年齡とは思へない靈的な押出しを持つてゐる。映畫を離れて、シャリアピンの歌を聞くだけとしても面白い

藝術としての映畫の位置を高めるのは、「ドン・キホーテ」のやうな映畫である。寫眞はその一場面―

九・五・九―

「京大俳句」抄

▽平畑靜塔―フランスの人住む花の山も見ゆ
▽野平椎霞―若葉婦やかゝる夜更けの雛の扉に
▽瀬戸口鹿影―寢ころべば早蕨の棘が頰を埋め
▽東條閑―人に馴れ水禽餌につきくるよ
▽太田蟬郎―觀客に花ふり來り寢をとづ
▽乙部寂水―山吹にバス待つ日傘うちかたげ
▽吉田魚遊―梨の花かなしと告げしひとを憶ふ
▽田所青荷―金魚田の暮れて廊の灯がうつり
▽寺野保人―牛にもの言ひ聞かせて田を鋤ける
▽山內水亞―夏の燕切るかに翔りつばくらめ
▽井上白文地―口笛の澄むがうれしく新綠に
▽中村三山―花蜜柑の丘の夜みちはくらからず

人間漫談　非凡人

V　O　Q

英雄、偉人、天才、そんな仰山な非凡人ではない、誰の周圍にも、三人、五人は、すぐに見つかるやうな「變つた人間」を、京大出身で、筆者の知人、交友の間から、一つの人間風景として拾ふ。

彼の死は多く人に惜まれたが、惡まれながら死んだ彼でもあつた

彼の職業は、彼が住宅を建て得る金をもち、特に郊外を選ばねばならぬ職業をもつてゐたことに原因する。新築當時は、人家を離れた一軒屋、鳥の聲、風の音のほかには、彼の讀書執筆を妨げる騷音は聞かれなかつたが、都市の膨脹で、彼の近所には年毎に新築家屋が建つて來た。人間は音をたてる動物であり、都會は騷音の坩堝である。彼は此の新しい敵―騷音―隣人と鬪はねばならなかつた。

◇

彼が如何に仇敵―ラヂオを憎んだかは、諸君御承知のこと……

「あなたの尺八が邪魔で仕事ができません。今晩から斷然やめて下さい」

彼の妻君が、近所の二階借の大學生に抗議した「うちは著述者ですから……」と、著述家の神聖不可侵を楯に、威丈高にかけあふ彼女の態度にツムジを曲げた大學生は、意地になつて六段を吹き續けた。學生監に呼出され、やがて巡査がやつて來た。

「相當離れてゐて、無理な注文ではあるが、先方に同情して……」巡査は横柄づくではなかつたが大學生は「不愉快になつた」その後、著述家の附近には、二階借の學生が近よらなくなつた。貸二階階級に悲憤が來た。

彼の妻君は、女學校の音樂教師のピアノに抗議した「私も職業柄ですから……」とはいつてみたが校長や巡査の顏を見るのが厭やで女教員は引越した。近所の空地に、大工の作事小屋が建つた。地主にかけ合つても時があかず「あなたは藝術家で、私の窮狀を理解して下さる筈だから……」と、彼は、陶工たる地主の弟に、切々と愬へた。

自宅に來られることを嫌つて、彼は自分の子供を他所の子供と絶對に遊ばせなかつた。

◇

八方當りの彼の抗議外交で、彼は全く孤立した。彼にとつて彼の仕事を妨げる隣人が敵であつたやうに、周圍も亦「ケッタイな人!」として彼を憎んだ。

◇

學生時代の彼を知る筆者は、こんな噂を傳へ聞いて、彼に同情した。彼は惡くいへば、狷介で、不遜で、孤獨で非社交的であつた。能吏で精勵、勉强家で、几帳面な彼を畏敬する者は少く、いやに自信が強くて、ペダンチックで「いやな野郎だ!」と、叩きつける者が多かつた。然し筆者は、哲學科の學生でありながら數學、國法學、刑法の講義を聞きに來る彼を驚嘆の人として尊敬し、語り合つて歡談され、輔轉された。彼の八宗兼學振り―哲學、社會、宗教、美術、政治、經濟、一切の文化科學に關しての純學の精進は、學生時代からの不撓の努力の結果であり、隣人を敵としてまでも鬪ひとつた戰利品であつた。彼の著論に何のオリヂナリテーがあるか、ユニークな何ものがあつたか、筆者は知らないが、超人間的などといつてい、ほどの多讀多解には、たゞそれだけで頭が下がつた。交友も、隣人も、子供の生活も、更に彼自身の健康も、一切を犧牲にして、彼は書き續け、そして遂に原稿紙の上に血を吐いて仆れた。

◇

筆者に肺結核で仆れた二人の學友がある。一人は「死なぬぞ、なあにクソ! 死ぬものか」と、齒ぎしりながら、あがき死んだ。一人は、死の五分前、突然「もう死ぬ」といつたので、周圍が驚き、騷ぎ、彼の妻君が泣きだしたのを「靜かにしろ!」「靜かに」「靜かにし」と囁きながら、遙かに、徽かに聞ゆる音樂でも聞き入るかのように、靜かに息をひきとつた。

私はこの著述家の臨終が、恐らくは、第一の友人のようではなかつたかと想像してみた。彼は彼自身の哲學の建設のために、一切の妨害、著述家にとつての社會惡―都市の騷音、やがては俗論曲說と鬪ひ續けたかつたであらう。（五月十六日）

温室に咲く

三木田昌夫

一

伊庭の夫妻は美しい兩人であつた。だがそれは夫の賢がスマアトな風貌の上に苦味ばしつた面長な顏を載せて居り、妻の美津子が玄人にも稀な纖穠と物腰の所有者であるといふだけではなかつた。ひとびとは彼等の生活と兩人の心情とを讚へるのであつた――何故なら彼等の生活には全き平和とゆたかな物質が惠まれてゐたし、兩人とも高い教養と趣味とを持つてゐたから……。

彼等は、お互に愛しあふことも亦他人を愛することも從つて他人に愛されることも出來る二人であつた。

春には五位鷺が群がり、秋立つ日には白雲を泛べた靜かな水面を「濫旗の使徒」のやうな蜻蛉が翔るほどの廣い池に面して、伊庭の家は新しいバンガロウの建物だつた。ゆつたりと取つた庭先には、四季とりどりの匂を送る花園と南洋の情緒をしのばせる棕梠と芭蕉の叢叢とがあり、籬の外にうち續く赤松の梢からは、日毎に大阪通ひの汽船が眺められた。

賢は朝早くこの郊外から事務所の在る北濱へ通ふことを缺かさなかつた。彼はシャルムウズなどを材料に高雅なショールや尖端を誇るパラソルの工場を持つてゐた。彼には流行の動きと婦人の嗜好を把み取る自信が十二分にあつた。

「たかゞ女の趣味だ、僅かばかりの新味を加へてちよつぴり技巧を加へておけば、どんどん捌けて行くこと請合だ」彼は自家の商品の陳列を見て、よくから思ふのだつた。事實、お得意先の三越では賢のパラソルを一月の間に何千本となく賣り、また大丸でも彼のショールを絶讚の裡に賣盡した。

二

賢は商人には相違なかつた。が然し而大抵のいはゆる大阪商人ではなく、英國紳士風の小綺麗な風格を具へ、そして金錢にはかなり恬淡であつた。そのために又それだけ禍を受ける場合も多かつた。實兄の電鈴の企業に彼の儲けの幾割かゞ倒され、親戚の化學工業にも少からぬ金員を補塡しなければならなかつた。血が水よりも濃いためのこの損失には、彼が商人である以上、つまり資本を重んじなければならぬ以上、所詮、自己防衞の手段を考へなければならなかつた。だから彼はおのづと自緣故に迷惑の降り懸かる兄弟親戚を遠ざかつていつた。それは彼にとつて淋しい心苦しいことではあつた。從つて彼は一言もこの事に就て他人に口外したことがなかつた。賢の晴れやかな眉目の蔭に、ある時過り翳の如くかすめ去るこの悲しい陰翳は、敏感な友人たちの深い同情をかつてゐた。

兎も角、外見的には賢の夫妻は幸福さうであつた――裕福と才藻と謙譲と節度とが生活を貫く絆であるように思はれたから。夫は曾て學生時代のスポオツマンらしさで營々としてこの都會裝飾の生產に沒頭し、妻は多藝多才な素養を以て夫君を愛撫し力づけた。たゞ兩人の間には一人の子すらなかつた。

結婚生活十五年、未だこの愛の花には一個の果實さへ稔らなかつたのである。兩人は若か若かしく子寶に就ては毛頭考へてゐないようであつた。たゞ世間のひとびとの不用な臆測とけがらはしい忖度のみがあつた。兩人とも子供や亡き後のことを考へることを避けてゐるようであつた。恐らくある老齡に達すれば、事もなく資產の後繼者を他人に求め、何の心殘りもなく讓渡するほどの淡白さと雅量を持つてゐたのであらう。

三

兩人は又いつかは來るべき死の場合をも考へないようであつた。勿論、彼等も人間であれば、人生の終焉を自覺してゐたであらう。

だがこの夫婦の完全なる結合に於ては一者の肉體的破綻は同時に他者の精神的枯死、即ちその肉體的渇死を意味したであらう。彼等の相互の心持におけるあの愛如たる姿は、この運命の掟の前に忠實であるがためであつたらう。

然るにいまや一つの試煉があつた!

即ち賢がかりそめの風邪がもとで急性肺炎を惹き起し、大學病院の最高の醫療も僅かに一旬日にして他界しなければならなかつた。臨終の枕頭に侍る美津子の看護に疲れた姿、茫然としてこの遽かなる現實を理解する餘裕もなく、親戚友人の弔問の詞久しくして漸く慟哭する有樣は想像にも及ばなかつた。

賢が四十、美津子は三十三、なんぴとにも豫想されない無慘なる天命は、緣故ある者にも友人にも、まして取り遺された未亡の妻にも如何にして直に諦理すべきかを知らさない一大椿事でなければならなかつた。たゞこの際、世間の例に倣つて妻は一先づその生家に還り、死者の冥福を祈ることになつた。

四

滿一ケ年の後、美津子は可愛い一人の女の子の母親となり、二人の男の子の義母となつてゐた。

彼女の妹が神戸に嫁してゐたが賢の逝去後三週間を出でずして、その妹も腦膜炎で急死した。そしてその葬式の夜、美津子はその妹の夫の妻となつたのである――丁度賢の四十九日までの眞只中の日に!……。

春

藤田福夫

春さりて夜更けの階下に時に立つ碁石まさぐる音澄みにけり

南紀詠草三首

潮ふ春の光の囁きは小蒸氣すぎていく時ならむ
うばめ樫の根際の羊齒に陽ちこもり目白囀るこゑの愛しさ
さゞれなみ立つや汀の春日射し幼魚のむれは背く走れり

◆

春日野の青芽のなぞへ下らむと鹿はかすかに足すべらしぬ
さみどりの楓の葉むら見つゝあれば我に生誕の記憶あるごとし
櫻やみ我が行く前の道ぞひに子をもろ手なる人影は見ゆ
裏庭の朝の砂場にわれも出て童に佩けてやる白薔薇の造花
良夜や若葉の奥の洋館に窓おしひらき童よぶこゑ

京大事件失敗談

まかれる新聞記者

□□□

L・P・J

―京大事件に關係した新聞記者として失敗談を話せつて? 冗談おやりませんよ。そりや、一番下に着るシャツを公衆の前に持ち出せつていふようなもンですよ。なるべく綺麗なところを見せたいんで、どうせ正直に話はし憎いんだが、でも、心安いあなたからのたつてのお望みとあらば、一つお話しませうか。嵐の京大總長室に納つた小西、山本、松井の三博士を中心に……。

小西總長

京大事件は小西重直博士の總長就任とともに始つたかに考へられてゐるが、實はその前任者新城博士の總長時代に既に端を發してゐた。一昨年十二月、新城總長が上京した際に、赤間專門學務局長から「瀧川教授の思想は危險だが、何とかならんかね……」と相談を持ちかけた事實がある。すると新城博士は「瀧川君なんか何でもありませんよ。瀧川君をやるくらゐならもつと外に……」と、冗談のように法學部でない文科系統のある教授の名をあげたといふことだ。これは別に新聞記者のだまされた話ではないが、新聞に出なかつた、「京大事件以前」のエピソードの一つである。

さて小西總長就任早々、瀧川教授の「刑法讀本」が中央大學の講演とともに再び問題になつて來た。文部省は強硬な態度で瀧川教授の處分を迫つた。昨年四月廿二日總長は文部次官と會見文部當局は「瀧川教授の學說內容は調査ずみである。何とか早く處分をして貰ひたい」と命令的に迫つたが、小西總長はこれを拒否したのである。この時小西總長は歸洛後、新聞記者に對し「瀧川教授問題については文部省から何も話しはなかつた」と眞赤なうそをついてゐる。話がなかつたどころか事態はますます惡化しつゝあつたのだが、五月十日法學部教授會が「文部省の要求には斷じて應じ難い」と意思表示するまでは、京大對文部省の抗爭は全面的にジャーナリズムの表面に躍り出ることはなかつた

しかし事態はやがて餘りにも急迫して來た。そして五月廿三日、小西總長は最後の回答をなすべく東上した。出發は同日午後十時十四分。この豫定を傳えて、新聞記者も、激勵文を讀むための學生諸君もその時刻に京都驛に押しかけた。ところが小西總長の姿は驛に見えないのだ。「やられたッ!」と記者團のどの顏にも悲壯な色が浮んだ。その頃小西總長は米原で鈍行を急行に乘りかへて、東海道をひたばしりに悲壯な決意を走らせてゐたのだつた。

あけて廿四日。文相と總長の會見は決裂! 總長は午後九時廿五分東京驛發の寢臺券を買つたと東京からの飛電だ。京都の記者團は、今度こそぜひとも小西總長のインタヴューを取らねばならぬと前夜から名古屋まで出向いて手具脛引いて待つた。然るにどうだ! 寢臺は藻拔けの殼だ! 總長をまたも逃がした! 緊張を通り越した情ない焦躁の氣持で東海道のあらゆる列車を探したが無駄だつた。手を空うして京都に歸つたころには總長は京大總長室にチャンと納つてゐたのだ。

五月廿六日、あの歷史的な大會で法學部全教官辭職! 必然的に考へられることは小西總長の辭職だつた。總長の東上は辭意の表明を意味する。さうした情勢にあつた廿七日午後三時ごろ小西總長がまたもや姿がくれした。新聞記者諸君はまた〳〵だし拔かれたと地太んだが始まらない。廿七日晝すぎに自宅を出た總長は、天を驅け地をもぐるかのように東海道の恐怖的道中をやつてゐた。かうした小西總長にはいつも影の如くチョッキとズボンの間からワイシャツをのぞかせた眼の鋭い紳士がついてゐた。總長は「新聞記者諸君をまくにはまた骨が折れるもんでね」と後になつて述懐に淋しい笑を見せて語つた

その總長も鳩山―小西案の失敗によつて、遂に六月十六日夜、學部長會議に辭意を洩らした。急をきいた新聞記者が深夜の小西邸を叩くと悲痛な面持ちで「けふは何にもいへません。明日になつたら、君に謝らねばならぬかも知れないが、けふは何にもいへません」と泣くようにいふのだつた。この好意あるうそに、落ちかゝる涙をヂッと押へて小西總長辭職の記事を書いてからはや一年に垂々としてゐるのだ。

（寫眞は新聞記者、警官、憲兵學生主事などに守られる小西總長）

廣告

貸室
庭球場
浴場
理髮室
娛樂室
食堂……諸設備有リ
京都アパートメント株式會社
百萬遍電停前　電話上四四八八番

京大共濟部指定
歐米漫遊と海外留學の洋服はロンドンスタイルの長屋
寺町丸太町南
電上四六三・七五七四

眼鏡　正確
專門　廉價
京都帝大醫院眼科
府立醫科大學眼科
赤十字京都療院眼科
伏見病院眼科
御指定
吉川眼鏡店
京都大學病院眼科小兒科門前
電上四九一番
振替大阪三八七二八
獨逸カール、ツアイス會社特約店

有本の洋服
共濟部指定
京大北門前
電上③2627

電線
電纜
遞信省
陸軍省
海軍省
鐵道省
御指定工場
動力用
通信用
紙絶緣ケーブル
キヤブタイヤケーブル
耐油絶緣電線
日本電線株式會社
本社　東京市向島區寺島町
工場　東京市向島
　　　川崎市古川通
大阪出張所　大阪市南區北森町一九

性病科
皮膚科
泌尿器病科
理學療法科
阿部醫院
烏丸四條下ル一筋目東入北側（綾小路烏丸東）
電話下(5)三四九二番
醫學博士　阿部正言
診察時間　朝八時至一時　夜四時至九時

醫・農・理・工學部
講義プリント
各學部ノート筆寫
プリント社
萬里小路近衞上ル
電話上六四五四番
醫學部西側

京都帝國大學醫學部眼科教室
大阪帝國大學醫學部眼科教室
京都府立醫科大學眼科教室
日本赤十字社病院眼科部
獨逸カール・ツアイス社
京都府販賣所
（東京市丸ノ內郵船ビル）
指定眼鏡調製所
白井眼鏡店
京都帝國大學病院前
電話上（3）二三七九番
振替大阪三〇六八〇
大阪市東區平野町三丁目
電話本局一六三番

酒場
スパロー
河原町四條上ル東側

珈琲とカレー
サンパウロ
河原町四条上ル西側